

第37回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 1999年6月22日（火）10：30～10：55

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長代理、依田委員、遠藤委員、木元委員
 （事務局等）科学技術庁
 原子力局
 原子力調査室 森本室長、板倉、村上、池亀
 資源エネルギー庁
 原子力発電安全企画審査課
 黒谷統括安全審査官、忠内、永田、小山
 吉舗専門委員

4. 議題

- （1）東京電力株式会社福島第二原子力発電所の原子炉の設置変更（1号、2号、3号及び4号原子炉施設の変更）について（諮問）
- （2）その他

5. 配布資料

資料1-1東京電力株式会社福島第二原子力発電所の原子炉の設置変更（1号、2号、3号及び4号原子炉施設の変更）について（諮問）

資料1-2東京電力株式会社福島第二原子力発電所原子炉設置変更許可申請（1号、2号、3号及び4号原子炉施設の変更）の概要

資料2 第36回原子力委員会臨時会議議事録（案）

6. 審議事項

- （1）東京電力株式会社福島第二原子力発電所の原子炉の設置変更（1号、2号、3号及び4号原子炉施設の変更）について（諮問）

平成11年6月18日付け平成11・02・16資第11号をもって通商産業大臣より諮問のあった標記の件について、通商産業省より資料1-1及び資料1-2に基づき説明があった。これに対し、

フラットチューブ型制御棒を採用する理由は、

（資源エネルギー庁）主な理由は、制御棒の長寿命化である。

どれくらい寿命が延びるのか。

(資源エネルギー庁) 3～4 サイクルは使用できる。

これまでの制御棒タイプの実績について教えて欲しい。

再処理委託先確認方法の変更については、現実的に必要な対応だが、疑問を持つ国民はいるかも知れない。

との委員からの意見及び質疑応答があり、本件については引き続き審議することとなった。

注) 本件申請に係る変更は以下の通り

① 1 号、2 号、3 号及び 4 号炉の核燃料物質取扱設備の一部及び使用済核燃料貯蔵設備の共用化

② ハフニウムフラットチューブ型制御棒の採用

③ 使用済燃料の再処理委託先確認方法の一部

(2) 議事録の確認

事務局作成の資料 2 第 3 6 回原子力委員会臨時会議議事録(案) が了承された。

なお、事務局より、次回は平成 11 年 6 月 25 日(金) に臨時会議を 10:30 より開催したい旨発言があった。